

1 活動名

議会改革及び大型小売店舗と既存商店街振興策について先進地視察（大津市）

2 調査の目的

(1) 本市における課題

議会基本条例改正 6 年を経過する中で、議会改革の進捗はまだ不十分である。また、イオンモール松本の開店以後、中心市街地の松本パルコ及び既存商店街の集客力が落ちる等の影響が表れている。

(2) 調査の必要性

議会改革の取組みは、条例に基づく市民への説明責任や市民参加及び市民との連携において、実施している各種取り組みの他に実施することが必要との仮説の下、現地調査が必要である。また、イオンモール松本開店後の既存店への影響対策をどうするかは開店前からの課題であり、同じような状況都市の調査が必要である。

(3) 調査項目

議会改革：議会改革の具体的な取り組み状況について

既存商店街振興策：イオンモール開店後のパルコ等への対応策について

3 調査地選定理由

(1) 大津市

2015 早稲田大学マニフェスト研究所による議会改革度ランキング第 2 位であるイオンモールとパルコが併存する都市である。

4 調査結果

(1) 実施日 2019 年 7 月 16 日（火）

(2) 出席者 上條一正

(3) 議会改革

平成 27 年議会新体制に併せ、任期 4 年間に実施するミッションロードマップ（議会版実行計画）を策定し、政策立案と議会改革の二本柱で 11 テーマを設定して実施、平成 30 年度に外部評価と検証を行い、活発な議会活動を展開している。

(4) 商店街振興策

大津市の立地条件は、京都隣接草津市等と商圈は一体で形成されている。加えて昼夜間人口比率が 92.1 であることから、商店数そのものが昭和 57 年比 30% の状況。街振興策は、商店街自らが計画したものに支援する事業等 6 制度。大津パルコは平成 17 年に閉店し別の商業施設となっている。

(5) 成果・所感等

議会改革は議会としての合意の上で実行できるため、無所属の立場でどの場所で発言提案できるかを同行した会派開明の議員と連携して取り組みたい。また、商店街振興策は、松本市の実施策が充実していることを確認した。パルコの対策は資本主義の原則を踏まえながら、次を見据えた対応が必要と考える。

5 政務活動費

(1) 用途項目 調査旅費

(2) 支出額 39,510 円（日当 3,000 円、宿泊費 14,800 円、交通費 21,710 円）× 1 人